

グリット（やり抜く力）と家計の金融資産蓄積の関係

末廣徹^a 武田浩一^b 神津多可思^c 竹村敏彦^d

要約

本論文では、心理学的概念である個人のグリット（やり抜く力）を Web アンケート調査によって調査し、個人のグリットの高さとう金融行動の関係を分析した。その結果、グリットが高い（やり抜く力が強くて忍耐力がある）ほど、(1)収入が多く、(2)金融資産の保有額も多いことが分かった。また、(3)目的を持って貯蓄をしている（セルフコミットメントを行っている）個人にとってグリットは一段と効果を発揮する（金融資産の蓄積を促す）ことを示した。グリットは後天的に誰もが獲得可能な「やり抜く力」とされ、ビジネスやスポーツにおける個人のパフォーマンスの高さと関係があることから注目されている。日本では老後の金融資産が不足している個人が多数存在することが社会問題となっており、後天的に獲得可能なグリットが金融資産の蓄積を促すという本稿の結論は金融教育や政策運営に資するものである。

JEL 分類番号： D12, D15, D91

キーワード：グリット，家計の金融資産，Web アンケート調査

^a 法政大学大学院経済学研究科 博士後期課程 toru.suehiro.9a@stu.hosei.ac.jp

^b 法政大学経済学部 教授 ktakeda@hosei.ac.jp

^c リコー経済社会研究所 所長 takashi.kozu@nts.rioh.co.jp

^d 城西大学経済学部 教授 tkmrtshk@josai.ac.jp

1. はじめに

近年では心理学的概念であるグリット（やり抜く力）が注目されている。グリットは後天的に誰もが獲得可能な「やり抜く力」とされ、ビジネスや学業だけでなく、スポーツや芸術など様々な分野で成功している人たちはグリットが高い傾向があるという。

金融・経済の分野でグリットが重要な理由は、収入や富の蓄積に関わる特性である可能性が高いからである。様々な分野で成功を収めれば自然と高い収入を得ることが出来る可能性が高い。そして、グリットは金融行動にも影響を与える可能性が高い。自制を行うことができる高い人は、過剰消費を抑制して将来の資産形成のためのルールを作る「セルフコミットメント」を設定し、そのルールを遂行することで金融資産を十分に蓄積することが出来ることが予想されるが、金融資産の蓄積は短期的な不合理行動を抑制する「自制」だけでなく、老後資金の蓄積や高額な耐久財の購入などより長期にわたって目的にあった金融行動を採り続ける必要がある。ある種の情熱(*passion*)を持って金融資産の蓄積ができる個人は、十分な金融資産の蓄積が可能になる確度が高くなるだろう。

本稿では、われわれが2011年より継続的に行っているWebアンケート調査の結果を用いて、個人のグリットの高さと(1)収入との関係、(2)金融資産の保有額との関係、(3): 目的を持って貯蓄をしている（セルフコミットメントを行っている）個人の金融資産保有額との関係を分析した。つまり、金融資産の蓄積の決定要因として、比較的新しい心理学的概念であるグリットがどのような役割を果たすかどうかを明らかにする。

2. 関連研究

本稿が注目するグリットに関する研究は Duckworth et al. (2007)などが初期の研究として挙げられる。Duckworth et al. (2007)は長期的な目標を成しとげられるか否かという現象に焦点を当て、長期目標に対する情熱と粘り強さからなるグリットという非認知的特性を提案し、その個人差を測定するグリット尺度を作成し、有用性を議論した。

グリットが個人の金融行動に与える影響の研究としては、Duckworth and Weir(2011)が挙げられる。Duckworth and Weir(2011)は米国の高齢者に対するインターネットアンケート調査によって、グリットが高いほど収入が多いことを示した一方で、支出については明確な関係は示されないことを示した。他にも、Cornaggia et al. (2020)は負債の支払いに関する姿勢に注目し、米国の学生ローンのデータを用いてグリットが高いほどローンの返済を滞りなく行うことを示した。

グリットが金融資産残高の蓄積に与える影響を分析した本稿は、これらの研究の延長と言える。つまり、Duckworth and Weir(2011)や Cornaggia et al. (2020)が議論した金融行

動のフローに対するグリットの影響が蓄積した結果が金融資産の保有状況(ストック)につながると考えるからである。ストックの概念においてもなお、グリットが金融行動に影響を与えるかどうかを明らかにする。

3. 調査概要とフレームワーク

3.1. 調査概要

本稿では、2020年2月に実施した「金融行動に関するアンケート調査2020」(以下、「2020年調査」と称す)と題したインターネットアンケート調査によって収集した個票データを用いて分析を行う。調査対象者は調査会社に登録している会員の中から2万人を対象に予備(スクリーニング)調査を実施し、その中から年齢層別(20代、30代、40代、50代、60代、70歳以上)に等サンプルで割付を行い、1,034人の回答を得ている。

3.2. グリットが金融資産残高に与えるパスの仮説

グリットが金融資産残高に与える影響としては、①収入を増やす効果、②支出を減らして貯蓄を増やす効果、の2つのパスが考えられる。Duckworth and Weir(2011)はグリットと収入には正の相関がある一方、貯蓄には相関がないことを示した。本稿でも、グリットと収入が正の相関があることを検証した上で、金融資産残高との関係を検証する。また、Duckworth and Weir(2011)はグリットと支出(すなわち貯蓄も)は相関がないことを示したが、本稿ではセルフコミットメントと組み合わせて考えれば違った結論が得られる可能性があるとしてこれらの関係を再検証する。再検証する価値があると考えるのは、支出と貯蓄のバランスは個人のライフサイクルなどによって大きく変わり得ることから、グリットが高くても忍耐力が強かったとしても、ライフサイクル上で支出が増加することが望ましい局面であれば、支出が増えて貯蓄は減ることが予想されるからである。つまり、グリットが支出や貯蓄に与える影響を考える際には、個人が貯蓄を望んでいるかどうかによって依存する。目的を持って貯蓄を行っている場合は、グリットがセルフコミットメントの効果を高める可能性があるだろう。個人が置かれている状況を限定することにより、グリットの効果が変わってくる可能性がある。これらを確認するため、本稿では以下の3つの仮説を検証する。

仮説(1): グリットが高い個人は各種能力や生産性が高く、収入が高い

仮説(2): グリットが高い個人は収入の高さなどにより、金融資産の保有額が大きい

仮説(3): 目的を持って貯蓄をしている(セルフコミットメントを行っている)個人の場合、グリットが高いほど金融資産の保有額が大きい

3.3. グリット指標 (grit-scale) とコントロール変数

本稿では、Duckworth and Quinn(2009)や西川他(2015)と同様に近年の分析に用いられることの多い8項目の短縮版のグリット指標(grit-scale)を用いた。具体的には「私は困難にめげない」などの8つの設問に対する回答結果に対して、因子分析を行い、第1因子をグリット指標とした。また、モデルではグリット指標の他にライフサイクルや時間割引率に関する各種コントロール変数を用いた。

4. 分析結果

4.1. グリットと収入

個人の年間収入を被説明変数として各種コントロール変数とグリット指標を説明変数とした tobit モデルを作成した。表1に示したモデルの分析結果によると、グリットは5%の有意水準で統計的に年間収入に対して正の回帰係数を持つことが分かる。Duckworth and Weir(2011)の結果と同様に、グリットが高い個人は年間収入も高いという傾向があることが分かった。「仮説(1): グリットが高い個人は各種能力や生産性が高く、収入が高い」という仮説は正しいことが分かった。

表1 年間収入に対する tobitモデル

	係数	標準誤差	t値	P値
男性ダミー	249.60	26.17	9.5	0.00
20代以下ダミー	-263.64	38.23	-6.9	0.00
30代ダミー	-166.86	36.80	-4.5	0.00
40代ダミー	-177.01	36.45	-4.9	0.00
60代以上ダミー	-159.78	34.20	-4.7	0.00
大卒以上ダミー	163.86	23.06	7.1	0.00
無職ダミー	-236.16	33.22	-7.1	0.00
金融クイズダミー	11.36	23.58	0.5	0.63
せっかち度	-12.86	12.13	-1.1	0.29
グリット	23.45	11.77	2.0	0.05
定数項	267.54	35.93	7.5	0.00
#	950			
Pseudo R ²	0.025			

4.2. グリットと金融資産残高

グリットが個人の金融行動に与える影響に関する先行研究では、収入や支出(貯蓄)という「フロー」のデータに関する分析にとどまっておらず、金融資産残高という「ストック」の分析にまで及んでいない。そこで、本稿では個人の金融資産残高を被説明変数とし、各種コントロール変数とグリット指標を説明変数とした tobit モデルを作成した。tobit モデルを用いた理由は、金融資産残高が打ち切りデータであるからである。表2に示したモデルの分析結果によると、グリットは5%の有意水準で統計的に金融資産残高に対して正の

が分かった。仮説(1)によってグリットの高さが収入にプラスの影響を与える可能性が高いことを示されており、主に収入の差を通じて金融資産の保有額に正の影響を与えている可能性がある。

仮説(3): 目的を持って貯蓄をしている(セルフコミットメントを行っている)個人の場合、グリットが高いほど金融資産の保有額が大きい

個人が目的を持って貯蓄をしている(セルフコミットメントを行っている)場合、グリットの高さは金融資産の保有額に対してプラスの影響を与える可能性が高いことが分かった。Duckworth and Weir(2011)はグリットの高さは個人の支出に影響を与えないことを示したが、具板的な目的を持ってセルフコミットメントを行っている場合は、グリットの高さがプラスの影響を与える可能性がある。

以上により、本稿ではグリットの高さが収入や金融資産の保有額に与える影響を分析した。学歴や年齢、性別などと比較して観測することが難しいグリットという心理学的な特徴は少なからず個人の金融行動にも影響を与える可能性が高い。特に、高齢化が進む日本では老後の金融資産の不足が社会問題化しており、人々に金融資産の蓄積を促すことが政策的にも重要視されている。いわゆる「才能」ではなく後天的な特徴の一つであるグリットが金融資産の蓄積に対してプラスの影響を持つという本稿の結論は、人々は十分な忍耐力(グリット)を持つことで金融資産の蓄積が可能になることを示しており、特に金融資産の蓄積が不足する人々に対して、それを促すような政策や教育を行うことは有益であることを主張する結果であり、今後の政策運営にとっても有益な分析となった。

引用文献

- Cornaggia, J., Cornaggia, K. R., and Xia, H., 2020. Grit and Credit Risk, SSRN Scholarly Paper
- Duckworth, A. L., C. Peterson, M. D. Matthews and D. R. Kelly, 2007. Grit: Perseverance and passion for long-term goals. *Journal of Personality and Social Psychology* 92(6), 1087-1101.
- Duckworth, A. L. and P. D. Quinn, 2009. Development and validation of the Short Grit Scale (Grit-S). *Journal of Personality Assessment* 91(2), 166-174.
- Duckworth, A. and Weir, D , 2011. Personality and Response to the Financial Crisis. Michigan Retirement Research Center Research Paper No. WP 2011-260
- 西川一二, 奥上紫緒里, 雨宮俊彦, 2015. 日本語版 Short Grit (Grit-S) 尺度の作成. *パーソナリティ研究* 24 , 167-169.